

加古川市斎場の長寿命化の改修について

1 概要

加古川市斎場は、昭和61年（1986年）に竣工後、約38年が経過しようとしており、老朽化が進んでいます。特に斎場の中心業務を担う火葬炉は竣工当初から入替を行っていないものがあり、使用できなくなるリスクがあります。施設・設備においても耐用年数を経過しているものが多数あり、火葬炉と合わせて改修を行う必要があります。

また、今後見込まれる火葬需要増加や家族葬などの新たな葬祭形式への対応や公共施設改修にかかる職員負担の増大等の課題を抱えています。

2 現状と将来予想

令和4年度実績の年間火葬件数は3,041件であり、平成25年度比で約26%増加しています。また、今後の死亡者数の推移を見ると、令和17年度（2035年度）から令和21年度（2039年度）の平均が3,620件となる見込みです。

また、待合室は現在4室ありますが、段差解消や部屋数を増やす必要があります。

図 2-1 年度毎の火葬件数

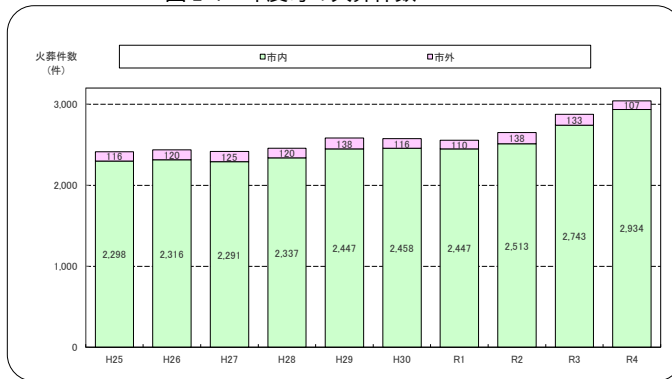


図 2-2 年度毎の待合室利用件数

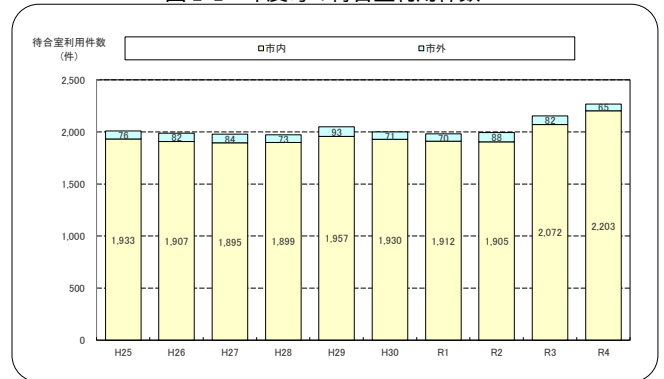


図 2-3 死亡者数の推移（推計）

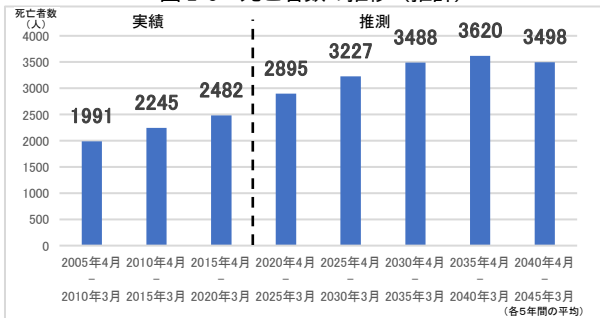


図 2-4 待合室と待合ホール



3 今後のスケジュール案

年度	実施予定
令和6年度	運営事業者選定支援業務契約 火葬炉関係業務（火葬炉設置・補修、斎場運営）の公募開始
令和7年度	火葬炉関係業務事業者選定
令和8年度	施設実施設計契約・実施設計開始
令和9年度	施設建設契約 火葬炉及び施設の改修工事開始